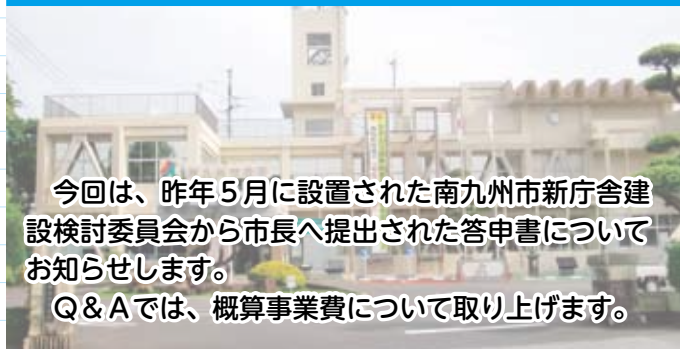


新庁舎建設を考える10



今回は、昨年5月に設置された南九州市新庁舎建設検討委員会から市長へ提出された答申書についてお知らせします。

Q&Aでは、概算事業費について取り上げます。

南九州市新庁舎建設基本構想・基本計画（案）パブリックコメントの実施結果

南九州市新庁舎建設基本構想・基本計画（案）を公表し、広く市民の皆さまのご意見を伺うパブリックコメントを実施しました。

（実施概要）

実施期間：令和3年12月10日～令和4年1月9日

提出人数：14人

提出意見の件数：42件

「パブリックコメントのご意見の概要と市の考え方」は、市ホームページでご覧になれます。



検討委員会から市長へ 答申書を提出

南九州市新庁舎建設検討委員会は、昨年5月に市長から諮問を受け、新庁舎建設基本構想・基本計画の策定について、9回にわたり委員会を開催し、検討および審議を行ってきました。

新庁舎の基本的な考え方（基本方針）や役割と機能、規模などについて、過去の市民検討委員会からの提言や市民アンケート、ワークショップ、パブリックコメントの結果を踏まえて、慎重に審議し、詳細を「南九州市新庁舎建設基本構想・基本計画（案）」のとおりまとめました。答申書は、1月26日の第9回検討委員会にて委員長から市長へ提出されました。



▲答申書を市長へ提出する繆坂委員長（1月26日）

「配慮すべき事項」を提案

答申書では、整備方針などとともに新庁舎建設にあたって配慮すべき事項を次のとおり提案しました。

- ① 今後の基本設計・実施設計において、人口減少や事務のデジタル化など将来を見据え、規模および財政的に過大にならないよう検討すること。また、著しい物価上昇などの予期できない事象が発生し、基本計画にある概算事業費（建設工事費とその他経費）約45億円を超えた場合は、再度施設規模や建設工事費の見直しを行うこと。
- ② 南九州市の歴史・文化を考慮し、地域の景観に十分配慮したデザインについて検討すること。
- ③ 移転新築後の現庁舎の利活用策については、地域振興につながるよう地域住民や各種団体などからの意見を聞きながら、まち並みの活性化に役立つ方法を検討すること。

答申書の内容や基本構想・基本計画（案）は市ホームページでご覧になれます。



市民の皆さまの疑問に答えます。

Q 新庁舎建設に係る費用が約40億円から約45億円に増えているのはなぜか？

A 市民説明会では、新庁舎建物の本体工事費と敷地内整備費（解体費、外構工事費）を含めた建設工事費について約40億円と説明しました。その際、設計費や備品費、移転費などのその他の経費は含まないと説明していましたが、建設工事費と総事業費の違いが分かりにくいとの意見があり、説明不足であったと認識しています。

その他の経費（設計費や備品費、移転費など）は、例えば、備品を新たに購入する数量や種類が現時点では未確定なため、これまで詳細を提示することは難しいとしていたところです。しかし、検討委員会から、その他の経費についても現時点での概算額を示した上で、新庁舎建設に係る総事業費を市民に明示すべきとの意見が出されました。

基本構想・基本計画（案）では、他市の事例を参考にその他経費の概算額を約5億円と見込み、建設工事費と合わせた概算事業費を約45億円としています。